日本古典全書

日本靈異記

監修　佐佐木信綱　新村出　津田左右吉
辻善之助　山田孝雄　和辻哲郎

日本霊異記

武田祐吉校註

朝日新聞社刊
日本古典全書

日本古典全書
「日本靈異記」　武田祐吉校註
昭和二十五年九月三十日初版發行
昭和三十一年一月三十日第四版發行
組版所　株式會社井村印刷所
印刷所　明善印刷株式會社
發行所　朝日新聞社（東京都千代田區有樂町・大阪市北區中之島・小倉市砂津・名古屋市廣小路）
定價　三八〇圓

目次

解說……三
一、時代……三
二、書名、卷數……五
三、撰者……五
四、成立年代……七
五、組織……九
六、文章、讀法……一三
七、訓釋……一五
八、內容……二〇
九、資料……二〇
一〇、思想……三六
一一、說話……四一
一二、文學史上の位置……四四
一三、後世の影響……四七
一四、傳本、研究書……五〇
一五、譯文……五六
凡例……五九
本文……六一—四〇八
〔上卷〕

序……本文六一　原文二六三
目　錄……六四　二六五
雷を捉ふる緣第一……六七　二六七
狐を妻として子を生ましむる緣第二……六八　二六九
雷の憙を得て生ましむる子、强き力ある緣第三……七〇　二七〇
聖德皇太子、異表を示す緣第四……七三　二七三
三寶を信敬し、現報を得る緣第五……七五　二七四
觀音菩薩を憑り念じ、現報を得る緣第六……七九　二七七
龜の命を贖ひて放生し、現報を得て、龜に助けらるる緣第七……八〇　二七七
聾ひたる者、方廣經典に歸敬し、現報を得て、両つの耳を聞く緣第八……八一　二七八
嬰兒、鷲に攜られ、他國に父に逢ふことを得る緣第九……八二　二七九
子の物を偸み用ゐ、牛と作りて役はれ、異表を示す緣第十……八四　二八〇
幼き時より網を用ちて魚を捕り、現に惡報を得る緣第十一……八五　二八一
人畜に履まるる髑髏、救ひ收められ、靈表を示して現に報ずる緣第十二……八六　二八二
女人、風聲の行を好み、仙草を食ひて、現身に天に飛ぶ緣第十三……八八　二八三
僧、心經を憶持し、現報を得て、奇事を示す緣第十四……八九　二八四
惡人、乞食の僧に逼して、現に惡報を得る緣第十五……九〇　二八四

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

慈の心無く、生ける兎の皮を剝りて、現に惡報を得る緣第十六……九〇……二八五
兵災に遭ひて、觀音菩薩の像を信敬し、現報を得る緣第十七……九一……二八五
法華經を憶持し、現報に奇表を示す緣第十八……九二……二八六
法華經品を讀む人を呰りて、現に口喎斜み、惡報を得る緣第十九……九四……二八七
僧、湯を涌かす薪を用ちて他に與へ、牛と作りて役はれ、奇表を示す緣第二十……九五……二八八
慈の心無くして、馬に重き馱を負はせて、現に惡報を得る緣第二十一……九六……二八九
佛の教法を勤學することに依りて物を利し、命終る時に臨みて異表を示す緣第二十二……九六……二八九
凶人、嬰房の母に敬養せずして、現に惡死を得る緣第二十三……九七……二九〇
凶女、生める母に孝養せずして、現に惡死の報を得る緣第二十四……九九……二九一
忠臣、欲少く、足るを知りて諸天に感ぜられ、報を得て、奇事を示す緣第二十五……一〇〇……二九二
持戒の比丘、淨行を修して、現に奇しき驗力を得る緣第二十六……一〇一……二九三
邪見の假名の沙彌、塔の木を斫きて、惡報を得る緣第二十七……一〇一……二九三
孔雀王の咒法を修持し、異しき驗力を得て、現に仙と作りて天に飛ぶ緣第二十八……一〇二……二九四
邪見にして、乞食の沙彌の鉢を打ち破りて、現に惡死の報を得る緣第二十九……一〇四……二九五
非理に他の物を奪ひ、惡行を爲し、報を受けて、奇事を示す緣第三十……一〇五……二九六
慇懃に觀音の福分に歸信して、現に大福德を得る緣第三十一……一〇八……二九八
三寶に歸信し、衆僧を欽仰し、誦經せしめて、現報を得る緣第三十二……一一〇……二九九

妻、死ぎにし夫の爲に願を建て、繪像を圖し、驗ありて、火に燒けず、異表を示す緣第三十三……二二……三〇〇
絹の衣を盜まして、妙現菩薩に歸願し、その絹の衣を修得する緣第三十四……二三……三〇〇
□知識、四恩の爲に繪の佛像を作り、驗ありて、奇表を示す緣第三十五……二三……三〇一

〔中　卷〕

序……二四……三〇三
目　錄……二六……三〇四
己が高德を恃み、賤形の沙彌を刑ちて、現に惡死を得る緣第一……三〇……三〇七
鳥の邪淫を見て、世を厭ひ、善を修する緣第二……三一……三〇八
惡逆の子、妻を愛し、母を殺さむとして謀り、現に惡死を被る緣第三……三三……三一〇
力女、捕力し試みる緣第四……三五……三一一
漢神の祟に依り牛を殺して祭り、又放生の善を修して、現に善惡の報を得る緣第五……三六……三一二
至誠心に寫し奉る法華經、驗ありて異事を示す緣第六……三九……三一四
智者、變化の聖人を誹り妬みて、現に閻羅の闕に至りて地獄の苦を受くる緣第七……三〇……三一四
蟹蝦の命を贖ひて放生し、現報を得る緣第八……三五……三一七
己、寺を作り、その寺の物を用ゐて、牛と作りて役はるる緣第九……三六……三一八
常に鳥の卵を煮て食ひて、現に惡死の報を得る緣第十……三七……三一九

僧を罵ると邪淫とにより悪病を得て死する縁第十一……一三九……三三〇
蟹蝦の命を贖ひて放生し、現報に蟹に助けらるる縁第十二……一四〇……三三一
愛欲を生じ、吉祥天女の像に戀ひ、感應して奇表を示す縁第十三……一四一……三三二
窮しき女王、吉祥天女の像に歸敬し、現報を得る縁第十四……一四二……三三三
法華經を寫し奉り、供養することに因りて、母の女牛と作る因を顯す縁第十五……一四四……三三四
布施せざると放生するとに依りて、現に善惡の報を得る縁第十六……一四六……三三五
觀音の銅像、鷲の形に變化して、奇表を示す縁第十七……一四九……三三七
法華經を讀む僧を呰りて、現に口喎斜みて、惡死の報を得る縁第十八……一五〇……三三八
心經を憶持する女、現に閻羅王の闕に至り、奇表を示す縁第十九……一五一……三三八
惡夢に依りて至誠心に經を誦せしめ、奇表を示して、命を全くすることを得る縁第二十……一五三……三三〇
塡の神王の蹲より光を放ち、奇表を示して、現報を得る縁第二十一……一五四……三三一
佛の銅像、盜人に捕られて、靈表を示し、盜人を顯す縁第二十二……一五六……三三一
彌勒菩薩の銅像、盜人に捕られて、靈表を示し、盜人を顯す縁第二十三……一五八……三三三
閻羅王の使の鬼、召さるる人の賂を得て免す縁第二十四……一五八……三三三
閻羅王の使の鬼、召さるる人の饗を受けて、恩を報ずる縁第二十五……一六一……三三五
いまだ佛像を作り畢らずして棄てたる木、異しき靈表を示す縁第二十六……一六三……三三六
力女、强力を示す縁第二十七……一六四……三三七

極めて窮しき女、釋迦の丈六の佛に福分を願ひ、奇表を示して、現に大福を得る緣第二十八……一六六……三九
行基大德、天眼を放ちて、女人の頭に猪の油を塗れるを視て、呵嘖する緣第二十九……一六八……三四〇
行基大德、子を携ふる女人に過去の怨を視して、淵に投げしめ、異表を示す緣第三十……一六八……三四〇
塔を建てむとして願を發し、時に生める女子、舍利を捲りて產まるる緣第三十一……一七〇……三四一
寺の息利の酒を貸り用ゐて、償はずして死にて、牛と作りて役はれ、償を償ふ緣第三十二……一七一……三四三
女人、惡鬼に點れて食噉まるる緣第三十三……一七三……三四三
孤の孃女、觀音の銅像に憑り敬ひ、奇表を示して、現報を得る緣第三十四……一七四……三四四
法師を打ちて、現に惡しき病を得て死する緣第三十五……一七七……三四六
觀音の木像、神力を示す緣第三十六……一七八……三四七
觀音の木像、火難に燒けず、威神力を示す緣第三十七……一七九……三四七
慳貪に因りて大蛇と成る緣第三十八……一七九……三四八
藥師佛の木像、水に流れ、沙に埋もれて靈表を示す緣第三十九……一八〇……三四八
惡事を好む者、現に利鋭に誅せられ、惡死の報を得る緣第四十……一八一……三四九
女人、大蛇に婚はれ、藥の力に賴りて、命を全くすることを得る緣第四十一……一八二……三五〇
極めて窮しき女、千手觀音の像に憑り敬ひ、福分を願ひて、大富を得る緣第四十二……一八四……三五一

序……一八六……三五三

目　錄……一八九……三五五

法華經を憶持する者の舌、曝れたる髑髏の中に著きて朽ちざる緣第一……一九一……三五七
生物の命を殺して怨を結び、狐狗と作りて互に相報ずる緣第二……一九四……三五九
沙門、十一面觀世音の像に憑り願ひて現報を得る緣第三……一九五……三六〇
沙門、方廣大乘を誦持し、海に沈みて溺れざる緣第四……一九六……三六一
妙見菩薩、變化して異形を示し、盜人を顯す緣第五……一九九……三六二
禪師の食はむとする魚、化して法華經と作りて、俗の誹を覆へす緣第六……二〇〇……三六三
觀音の木像の助を被りて、王難を脫るる緣第七……二〇一……三六四
彌勒菩薩、所願に應じて奇形を示す緣第八……二〇三……三六五
閻羅王、奇表を示し、人に勸めて善を修せしむる緣第九……二〇四……三六六
如法に寫し奉る法華經、火に燒けざる緣第十……二〇六……三六七
二つの目盲ひたる女人、藥師佛の木像に歸敬して、現に眼を明くことを得る緣第十一……二〇七……三六八
二つの目盲ひたる男、敬みて千手音觀の日摩尼手を稱へて、現に眼を明くことを得る緣第十二……二〇八……三六九
法華經を寫さむとして願を建てし人、暗き穴にありて、願力に賴りて、命を全くすることを得る緣第十三……二一〇……三七〇

千手の呪を憶持する者を拍ちて、現に惡死の報を得る緣第十四……二二……二七一
沙彌の乞食を擊ちて、現に惡死の報を得る緣第十五……二三……二七二
女人、濫しく嫁ぎて、子を乳に飢ゑしむるが故に現報を得る緣第十六……二四……二七三
いまだ作り畢らざる捻塼の像、呻ぶ音を生じて、奇表を示す緣第十七……二六……二七四
法華經を寫し奉る經師、邪婬を爲して、現に惡死の報を得る緣第十八……二八……二七五
產み生せる肉團の作れる女子、善を修し、人を化する緣第十九……二九……二七六
法華經を寫し奉る女人の過失を誹りて、現に口喎斜む緣第二十……三二……二七八
沙門、一つの目眼盲ひ、金剛般若經を讀ましめて、眼を明くことを得る緣第二十一……三三……二七八
重き斤に人の物を取り、又法華經を寫して、現に善惡の報を得る緣第二十二……三三……二七八
寺の物を用ゐ、また大般若を寫さむとし、願を建てて、現に善惡の報を得る緣第二十三……三五……二八〇
修行の人を妨ぐるに依りて、猴の身を得る緣第二十四……三七……二八一
大海に漂流して、敬みて釋迦佛の名を稱へ、命を全くすることを得る緣第二十五……三九……二八三
强ひて非理に債を徵り、多の倍を取りて、現に惡死の報を得る緣第二十六……三三……二八四
髑髏の目の穴の笋を揭き脫ちて、祈ひて靈表を示す緣第二十七……三三……二八六
彌勒の丈六の佛像、その頸を蟻に嚙まれて奇異しき表を示す緣第二十八……三六……二八八
村童、戲に木の佛像を刻み、愚夫研り破りて、現に惡死の報を得る緣第二十九……三七……二八八
沙門、功を積みて佛像を作り、命終る時に臨みて、異表を示す緣第三十……三八……二八九

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

女人、石を產み生して、神として齋く緣第三十一……二四〇……二九一
網を用ゐる漁夫、海中の難に値ひて、妙見菩薩に憑り願ひ、命を全くすることを得る緣
第三十二……二四一……二九一
賤しき沙彌の乞食を刑罰して、現に頓の惡死の報を得る緣第三十三……二四三……二九二
怨病忽に身に嬰り、因りて戒を受け、善を行ひて、現に病を愈すことを得る緣第三十四……二四四……二九三
官の勢を假りて非理に政を爲し、惡報を得る緣第三十五……二四五……二九四
塔の階を減じ、寺の幢を仆して、惡報を得る緣第三十六……二四七……二九六
因果を顧みず、惡を作して、罪報を受くる緣第三十七……二四九……二九七
災と善との表相まず現れて、後にその災と善との答を被る緣第三十八……二五〇……二九八
智行並び具する禪師、重ねて人の身を得て、國皇の子に生まるる緣第三十九……二五九……三〇四

日本靈異記

武田祐吉

解　說

一、時　代

諸寺を建て、大佛を作り、多量の經文を書寫して、奈良時代の佛教は、一往その盛を示した。しかしそれは、かやうな形體のある方面に於いてまづ盛になつたのであつて、思想方面には、次いで來たるべき指導者が待たれて居た。諸國に寺を建て經文を頒つたのは、佛教を流布するに與つて力があつたであらう。人々は、僧形となつて經文を讀み、佛像に禮拜することを知り、さうして家を離れて流浪し乞食する者が多くなつて、既にその弊に堪へなくなつた。かやうな狀態の間に、都は、奈良から長岡に遷され、續いてまた平安京に遷された。

かくの如くまづ形體のある方面に於いて盛になつた佛教に就いて、魂を入れたのは、傳教、弘法等の高僧であつた。その人々は、教理の方面にそれぞれの事業を成就し、思想團體としての佛教の存在を確實にした。かういふ狀勢のもとに在つて、僧景戒の日本靈異記は、形は變るが、同樣に一の指導者として、この世界に與へられたのである。

日本靈異記は、延曆六年にひとたび述作され、のち弘仁十三年のころに再修されたとされてゐる。延曆六年といふのは、延曆三年に都が長岡に遷されてから僅に三年後であり、弘仁十三年は、その後三十五年を經過し、平安京に遷都されてからも三十年近い年數を經てゐる。著者は、舊都となつた奈良の藥師寺の僧で、奈良時代の空氣の殘つてゐる中に生存してゐた人といへよう。ここに世人の迷執に陷つて惡業を重ねるのを止めようとして、わが國の實話を集めて、これに依つて佛敎の義理を敎へたのが靈異記である。

當時の僧徒は、全然家を離れて寺に入り、修行する者もあつたであらうが、一面には、俗家に留まつて、妻子を有し產業に從事しながら、佛道に入つて僧の形となつてゐる者も多かつた。靈異記の著者も少くも初めの間は、さやうな生活を營んでゐた。これは當時の事情としては、堅實な方法であつた。自分で僧になつた者には、さうするか、それで無ければ流浪人となるかであつたのだらう。そこで靈異記には、半俗半僧の氣分が殘つてゐて、そこに人心の動きも見られ、讀んで興味の多い說話が傳へられることにもなるのである。

靈異記は、人々に佛道を敎へて、罪惡から救はうとする目的のために、古今の說話を集めて、これに依つて善惡の據りどころを示した。その說話は、當時の世相人心から生まれ來たつたものであつて、時代と密接な關係を保つてゐる。著者は佛敎の僧侶であるけれども、例へば夢を信じ前兆を信じてゐるや

うに、當時の空氣の中に生きてゐる人であつた。ここに本書が、乾燥無味な教訓の書に走らないで、何時の世までも生きて傳へられて行くべき素質が存するのである。

二、書名、卷數

日本國現報善惡靈異記、長い名なので、略して日本靈異記とも、單に靈異記とも呼ばれてゐる。眞福寺本の下卷の卷末には、大の字を加へて、大日本國現報善惡靈異記とあるが、上卷の序文中に、日本國現報善惡靈異記とあるのが、著者の附けた名とすべきである。これを字音でニホンコクゲンパウゼンナクリヤウイキと讀んでゐる。その名は、日本の國に於ける現に應報した善および惡の不思議な記事といふのである。なほその意味は、のちに記す所の內容に關する記事に至つてあきらかにされるであらう。

分量は三卷で、上中下になつてゐる。本朝書籍目錄の一本には、日本靈異記二冊となつてゐるものもあるが、現に三卷とも殘つてゐるし、序文にも上中下三卷となすとあるから、問題にならない。

三、撰者

撰者は、各卷の卷初および下卷の卷末の書名の下に、「諸樂右京藥師寺沙門景戒錄」とあり、序文中にも同樣の記事があるので、あきらかにされる。諸樂は、ナラの音を現すために使はれてゐる文字で、普

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo